

それでは、届出順に発言を許します。5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） おはようございます。5番議員、新政会の坂本充弘でございます。

12日の本会議が終わりまして、昨日から一般質問が始まりました。今日は、私と大浦議員がさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い質問に入らせていただきます。

1項目めは、市長選3期目出馬の決断について、2項目めは、国道道の早急な整備について、3項目めは、旅行者等に対するごみの回収方法についてでございます。

以上の3項目についてお尋ねをいたします。

1項目めの市長選3期目出馬の決断についてでございますが、比田勝市長におかれましては、今、非常に頭の痛いところだと思っております。今回、この質問をするのは誠に申し訳ないような気がいたします。しかしながら、多くの市民の皆様から御支援をいただき、2期目の当選をされてから、任期が早くもあと半年ばかりを残すこととなりました。1期目を終える頃に、日韓関係の悪化、また、新型コロナウイルス感染の流行により、様々な施策を実行されてまいりましたが、この対馬市には、まだまだいろんな問題が山積しております。

日韓関係については、韓国の大統領も替わり、観光客も徐々に増加してきております。世界第6位の広大な排他的経済水域を有している日本は、300を超える有人離島が基点となっております。特に国境に接する対馬は、古代から国防の拠点であり、新しい文化を受け入れる玄関口の役割を果たしてきました。国境離島として、その必要性は言うまでもありませんが、我々のこの対馬市、人口の減少、過疎高齢化が続いております。何とかしなければできません。

ここに、2020年3月6日付の市長の2期目の当選を掲載した対馬新聞があります。ちょっと記事を朗読させていただきます。字が小さいので、もうあらかじめ打ち替えております。

比田勝尚喜氏が再選果たす。市民とワンチーム。持続可能な豊かな島づくり。

3月1日、任期満了に伴う対馬市長選挙の投票が島内103か所で行われ、即日開票の結果、現職の比田勝尚喜氏（65歳、無所属）が、新人の荒巻靖彦氏（55歳、無所属）を破り再選を果たした。

守・破・離の最終段階、「離」の境地を目指して。

当選確定後、比田勝氏は、皆様のおかげで2期目の当選をさせていただきましたとお礼を述べた後、この1週間、対馬の隅々まで走り回り、今、対馬の喫緊の課題は人口減少問題。このまま放置すれば、2035年には、1万9,000人程度に減少すると推定されている。今後、様々な施策を展開していくことを心に誓っています。そして、この対馬に生まれてよかった、住んでよかったと思えるような、子どもから高齢者までが暮らしやすい対馬市を構築していきます。

また、観光産業については、韓国人観光客の激減で大変な状況ですが、対馬の農林水産業と観光の連携があってこそ、これからの対馬の観光産業が発展するものと思っている。対馬の食と観光をマッチングさせながら、対馬の観光産業を磨き上げていきたい。そして、市議会とスクラムを組み、市民とワンチームとなった持続可能な豊かな島づくりを目指してまいりたい。

このたび、私は、剣道の考え方で、「守・破・離」という言葉を使わせていただきました。この2期目につきましては、守・破・離の段階の最終段階、「離」の境地を目指して、対馬の活性化、発展のために、一生懸命に努力していきたいと思っています。

今後とも皆様方のさらなる御支援、御協力をお願いしますと話している。

このような記事でした。これから3年半が経過しましたが、市長自身は、任期を終えるまでに、「離」の境地を極める完成度はどのぐらいだとお考えでしょうか。

初日の本会議においては、高レベル放射性廃棄物の最終処分場に係る請願審査の採択がなされ、こちらのほうの決断もしなければならぬと思いますが、市長の誠実な人柄と、責任ある政治姿勢をもって指導力を発揮され、ぜひ3期目の出馬について決断頂きたいと思っております。

私は、島の将来を救っていただけるのは、長い職員時代から副市長、市長2期8年間の実績と、県、国へのパイプを持っておられる比田勝市長だと思っております。市長のお考えをお伺いいたします。

2項目めは、国県道の早急な整備についてでございます。

道路の整備拡充については、進行しているのは承知しているところではありますが、現在、韓国人観光客の増加により、大型バスやレンタカーなどの運行が急激に多くなっているところがあります。国道も県道も工事が進んでいる箇所はありますが、まだまだ2車線化ができていないところがあります。

対馬縦貫道路は、比田勝から厳原町豆敷間の全長約110キロ程度で、対馬を南北に縦断する国道382号線と県道24号線の大部分から成っております。大正4年に測量が始まり、同7年に比田勝を起点に着工されましたが、大正12年に関東大震災が起これり中断されました。

以来、再開されることなく時が流れ、第2次大戦が終わり、戦災復旧が一段落した昭和26年、国の総合開発計画に指定され、昭和28年離島振興法の成立により、対馬縦貫道の開発が復活しました。昭和31年には、2代目万関橋が架けられ、昭和43年春、美津島町の旧濃部トンネルの完成で、全線が開通いたしました。着工から50年の歳月がたっていました。

その後、知事も久保知事、高田知事、金子知事、中村知事、そして現在、大石知事へと受け継がれ、着々と工事が進んできておりますが、いまだ国道の2車線化が実現されておられません。昭和43年の開通から55年の歳月が流れました。できるだけ早急に整備が必要と思いますが、進捗状況についてお伺いいたします。

3項目めは、旅行者等に対するごみの回収方法についてでございます。

旅行者等のごみが後を絶たない現状であります。例えば、サイクリングで移動されてある方は、ホテルなどをチェックアウトされてから、昼食のお弁当を買われて、途中で食べられても処分するところがない。どこかにごみ箱を設置しなければならないと思います。何らかの対策が必要であると思いますが、市の考え方を伺います。

以上、3項目についてお尋ねいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。坂本議員の質問にお答えいたします。

初めに、1点目の市長選3期目出馬の決断についてでございますけども、対馬市には人口減少対策、そして産業の振興、育成など、課題が山積している状況でございます。

また、近況では、対馬市の将来を左右する高レベル放射線廃棄物最終処分場関連について、多くの議論があっており非常に難しい問題であります。

これまで2期、対馬市のかじ取りを担ってきたわけでありまして、私自身、これまでの政策、取組などを顧み、また、対馬市の将来を見据えながら、3期目の出馬に向けて前向きに検討をしているところでございます。そのようなことから、近い時期に正式に発表をいたしたいと考えております。

それから、私の心情でございます「守・破・離」の境地での進捗率ほどのくらいかというような質問もございましたけども、この「離」の境地の中で、予測つかなかった新型コロナウイルス感染症等の蔓延によりまして、私自身、満足な進捗が図れなかったということは事実であろうというふうに思っております。

次に、2点目の国道382号をはじめとする早急な道路整備の必要性についてでございますが、国の新型コロナウイルス感染症対策の緩和とともに、国内旅行者も昨年から増加傾向にあり、また、本年の5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが、いわゆる2類相当から5類感染症に移行したことにより、国外からの旅行者も増加しております。それらに比例し、議員御指摘のとおり、大型バスの往来やレンタカーも目立つようになってまいりました。これらは市にとりましても大変喜ばしいことだと感じております。

国県道の整備につきましては、平成28年度に、国県道路等整備促進特別委員会によりまとめいただきました要望事項に沿う形で整備を進めていただいているところでございます。所管いたします対馬振興局道路課並びに上県土木出張所におかれましては、現在、国道382号6区間、主要地方道6区間、一般県道3区間の道路工事、またこれらに加え、危険箇所の災害防除工事などに取り組んでいただいております。それらの工事におきましては、多数の関係者の御協力、御理解が必要となりますので、思うような進捗が図れない場合があると伺っているところでござい

ます。

私も事業の推進につきましては、県知事要望をはじめ、常々、話をさせていただいております。先般、対馬で開催されました長崎県議会離島・半島地域振興特別委員会で、県議会議員が10名来島されました。その際に、挨拶をする機会がありましたので、ぜひ、対馬の道路の現状を見ていただき、今後の整備へ御協力をお願いしますというふうに、強くお願いをしたところでございます。

また、視察におきましては、狭隘な部分が多々残っていることを確認していただいたと伺っております。市といたしましても、引き続き、県と協議を重ね、事業の進捗に協力しながら、本市の強靱化に努めてまいります。

3点目の旅行者等に対するごみの回収方法についてでございますが、議員御指摘のとおり、道路脇や山中にポイ捨てや不法投棄が後を絶たない状況であります。対馬市では、広報誌、ケーブルテレビで啓発を図るとともに、保健所や警察、海上保安部と連携して、毎年、合同監視パトロールを実施しております。

また、海岸漂着物の発生抑制対策として、パトロール員4名を雇用し、監視と回収活動を行っております。

旅行者、特に韓国人観光客向けには、国際船内でのDVD放映に加え、船内フロアに、対馬での旅行中における注意事項を記載したチラシを設置し、ごみ処理に対する啓発を行っております。

御存じのとおり、集落内や観光地等へのごみ箱の設置につきましては、生活ごみの投入や景観の悪化を招きますので、設置はしておりません。観光客のごみ問題についても、基本的に持ち帰ってもらうことが前提であり、宿泊所、もしくは港のターミナルなどで捨てていただくこととなります。

ごみのポイ捨ては、個人のモラルの問題でありますので、非常に難しい問題ではありますが、引き続き、マナー遵守の呼びかけを様々な媒体を通じて継続してまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） ありがとうございます。

順番を今度は逆にして、ごみのほうから行きたいと思います。

ごみの回収方法でございますが、サイクリングをしている旅行者が、レストラン等の食事処で食事をされなくて、スーパーなんかでお弁当を買って、そこで昼食を取る。実際そういうことがあっているわけです。そこで、やっぱりサイクリングをされている方は、あまり距離が遠いために持ち帰らないんです、現実には。ごみ箱がどこかにあれば、やっぱりそのマナーを持っておられると思いますので、そこに入れるようにできると思うんです。

車で動いてある方は車の中に置いて、最後のレンタカーを返すときにごみの処理ができるかも分かりませんが、サイクリングで来られた方やオートバイの方は、やっぱり最後まで持って帰らないんです。

そして旅行者は、船に乗るときにはごみを持って上がりません。特に韓国人の観光客は、やっぱり船の中までは自分のごみを持って帰ることはいたしませんので、何とかごみの処分ができるような体制、そこを検討していただきたいと思います。

マナー遵守の指導をするのは、もうできていると思うんです。やはり設置するところをつくらないと、ポイ捨ては止まらないと思います。東西南北、もう比田勝から巖原までの距離の中で、仮に真ん中ぐらいで昼食を取るといことでしますと、もうそのごみを引き取ってくれるところがないわけです。島民なら自分の家に持ち帰ることができます。旅行者は捨てる場所がないんです。本土の駅の中なんかは、ゴミ箱がいっぱい設置してあります。そこはペットボトルも缶も、利用者が全部捨てておりますけれども、屋内ですからそれができるかもわかりませんが、こういうサイクリングの旅行者に対して、持ち帰れと言っても持ち帰るところがない。その点、どうお考えでしょうか。御答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほども答弁いたしましたように、このことについては大変難しい問題というふうに捉えているところでございます。

私自身も上のほうの実家にたまに帰ったときに、道路脇のごみ収積箱の中を見ますと、ごみ収集日ではないのに、たまにそういった食べ物等の残りを捨ててあるというのを実際に見てきました。

そういう中、議員御指摘のように、途中にごみ箱をどうかして設置できないかということですが、我々行政といたしましても、何らかの形でごみ箱の設置ができればいいんですけども、今度は、そのごみ箱に対して旅行客じゃなくても、一般の方たちが家庭ごみをそこにまた入れたとしますと、そのごみがカラスや猫等で、また散乱をするというような心配もされるところでございますので、今現在は、できれば、ごみ袋等を提供することは可能でございますので、途中で食事等をされて、そのごみ等がたまった際には、途中のスーパーマーケットとか、そういったところで御協力をお願いいたしまして、収集ができないかなというふうには、我々の中では協議はしているところでございますので、今後、どのような形が一番望ましいのかということにつきましては、今後もしっかりとそこは検討をして、ごみ処理問題について進めてまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 市長の言われるのもごもつともであります。しかし、ナイロンの袋の提供があっても、引き取る場所、これが確立されていないんです。最後に持っていく場所がない。これは、そういうところを設置しなければ解決しない問題だと思うんです。対馬市はSDGs、ごみゼロアイランド対馬宣言、これをやっていると思います。

部長のほうにお尋ねをいたします。部長の考えはどのような考えか、何か施策はありませんでしょうか。よろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市民生活部長、村井英哉君。

○市民生活部長（村井 英哉君） お答えいたします。

坂本議員、御発言のとおり、ごみゼロアイランド対馬宣言ということで、対馬中のごみをなくして、きれいなリサイクルのできるまちにということでございますけれども、今、市長のほうからありましたように、やっぱりごみ箱等、島内、今、特に山中とか死角になるところには、そういった形でサイクリングの方々も、空であればもう荷物になりますので、やっぱりそこに捨てるというよりも置いていこうと、心なくでなくて、場所がないからということかもしれません。

しかし、市長が申しますように、適度なところにごみ箱を設置したりしましても、そうしますと、今度は島内の方々も含めて、いろんなごみの投棄ということも含めて、そういったことも起こります。そうしますと、それをまた回収するということも新たに確立しなければいけないというようなこと等もありますので、もう議員御指摘のとおり、SDGsという観点からしますと、一番の弱点といいますか、弱いところを突かれておりますけれども、そこはもう、我々、部、それからSDGsのしまづくりの部長等とも、また協議をしながら、何か具体策がないかというふうにやっっていこうと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 矛盾していると思うんです、宣言と。結局、確立されていない。ここは本当に課題だと思います。今後、検討をよろしく願いいたします。

スーパーなんかで、もしお弁当なんかを買ったら、そのときはナイロン袋の配布があるかもわかりませんが、今、有償になっていますよね。こういう関係も無償にしてもらおうような体制が取れないか、そして、食事をどこかでされたときに、ごみを持ち帰れるように、どこか近く、スーパーが離れたら、ちょっと元の買ったところのスーパーに戻せないときがありますよね、コースが違ったら。そういうところも考慮して、今後、検討をしていただきたいと思います。やっぱりごみのゼロ宣言をしている対馬市がこういう状態ではいけないと思うんです。その点、今後、検討をよろしく願いいたします。

それでは2点目の、国県道の早急な整備についての質問に入らせていただきます。

市長から先ほど説明がありました。その中で私が気になっているところがありますので、現在、工事中の仁田の檜滝地区、ここと畠ヶ浦地区について、もう少し詳しくお願いできないでしょうか。部長さんでも結構です。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 今、御質問の国道382号、檜滝工区と畠ヶ浦工区ということで、具体的な進捗率につきましてですけれども、対馬振興局のほうに一応お伺いしたのが、まず、檜滝工区、こちらは檜滝の拡幅工事ということで、計画延長が2.6キロメートル、進捗率は約60%と伺っております。

次に、畠ヶ浦工区、こちらは畠ヶ浦バイパスとして整備を行っております。計画延長が1.4キロメートルで、平成28年度に事業着手し、進捗率は約20%というふうに伺っております。

国県道につきましては、平成28年度から毎年、県知事要望において整備促進の要望を行っているところでございます。先ほどの市長からの答弁もありましたとおり、建設部といたしましても、引き続き、要望書の提出と併せまして、県と協議を重ね、事業の進捗に協力をしながら、本市の強靱化に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 説明ありがとうございます。

今、進捗率を伺いましたけれども、仁田の檜滝地区が60%、畠ヶ浦地区が20%ということですが、この両地区、あとどのぐらいの年数と距離がかかるのでしょうか。予想として分かるならお教えてください。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） あとどれくらいかかるのかというところで、長崎県に、一応、この件についてお伺いしたんですけれども、やはり事業規模が大きいということで、いろいろ社会情勢とかによって完成年度が大きく変わる可能性があるということで、その分についてはちょっと差し控えたいということで、県のほうからお話っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 県との協議がある以上、こちらのほうでできることではありませぬので、協議を今後やっていかなければできないと思います。その点については、もうお願いするしかありませんので、よろしく願いいたします。

対馬を離れて、他の自治体のほうへ行ったときに、やっぱり新聞なんかにも載るとき、道路整

備に関する国や県の陳情、これは道路の2車線化ぐらいのレベルでなくて、もう総合的な大きな道路整備の陳情が新聞等に載っているときがあるんです。南島原、西海、そういうところがありますけれども、対馬の道路整備については、人口の少ない面もあるかも知れませんが、金額的にも、対馬の工事は高いということを素人ながら私も聞いております。そういう中を考慮して、やっぱり県のほうと協議するときにも、強い話がやっぱり必要じゃないかなとは思いますが、その辺、市長、どういうふうにお考えか、少し聞かせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この道路等の整備につきましては、市長会のほうでも熱い議論が交わされておりますけれども、議員、今、御指摘の南島原道路とか、松浦、西海、ここら辺の主要幹線道路等につきましては、長崎県のほうも事業の進捗にももちろん力も入れているところでございますし、かといって、対馬の道路とか、五島・壱岐の道路とか、そういった2級国道をないがしろにしているわけではない。それなりに整備の進捗を図るための努力をさせていただいているということでございます。

そこで、私たちといたしましても、このことについては、やはり、この前も県議会の離島・半島振興特別委員会の皆様に強くお願いをしたように、今後も、この市民の声をもっともって伝えていく必要があるのではなかろうかというふうに思っております。

ちなみに、先ほど申しました、離島・半島振興特別委員会の議員の皆様が、やはり市長が、対馬の現況で狭隘なところがあるという話をしていたけど、ここがそうなんだなということで、やはりここは早く整備をしなくちゃいけないというような話を、そのときにバスの中でされていたというような報告を聞いておりますので、今後も力強く要望を重ねてまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 今後も市長に期待がかかっていると思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、一番最初の3期目出馬の決断についてでございますが、先ほどの答弁で、前向きに考えているということをおっしゃっていただきました。ありがとうございます。まだ結論自体は聞かされておませんが、本当に私は一番最適な人材ではないかなということで、強くそういうふうに思っておりますので、現実に決断を今後、待ちたいと思います。

市長が1期目就任された平成28年4月20日に有人国境離島法が成立しました。平成29年の4月1日より施行されております。それにより、航路・航空路の大幅な運賃の引下げが行われました。そして、農水産物の輸送費用も軽減されて、雇用機会拡充の推進、滞在型観光の促進な

どが実行されてきたわけです。

ここに市長のリーフレットもありますけれども、豊かな島へのビクトリーロード、5つの拡大戦略。1、働く、産業・所得の拡大、2、迎える、交流人口の拡大、3、整える、快適生活環境の拡大、4、健やか、健康福祉、5、育てる、人づくり・教育の拡大。

小さな内容については省略しますが、まだ実行されていないものがあります。2、迎えるの中で、交流人口の拡大の中で、島外来訪者の割引制度の導入です。これは、昨日、糸瀬議員より質問がありました。これは、対馬出身者だけでも何とか糸口が見えるように、今後、努力をさせていただきたいと思っております。

そして、3、整える、快適生活環境の拡大の中でというところで、比田勝港と巖原港の連携統合した港づくり、これと、対馬空港の滑走路延長、これがまだ完遂されておられません。残り任期中には間に合わないと思うのですが、比田勝港と巖原港の連携した統合した港づくりと、対馬空港の滑走路延長、この件の考え方は、市長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず1点目の比田勝港と巖原港の統合という問題でございますけれども、この問題につきましては、県を通じまして国交省のほうにも話をさせていただいておりますけれども、なかなかすぐには、この問題は解決することは大変難しいところでございます。

しかしながら、やっぱり国交省の方とも話をしていく中で、その必要性につきましては、一部理解もしていただいているところもございますので、今後も、可能な限りいろいろとその実現に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

それから、対馬空港の滑走路の延長でございますけれども、まず、あと100メートルほどの滑走路延長をずっとお願いをしておりますが、なかなか地形的な問題もありますし、いまだ実現はしていません。しかしながら、航空法上のリーサを確保するというところで、空港の東側のほうを、まず40メートル、80メートル、まず確保をするということで、今、計画が進んでいるところでございますので、また正式に決まれば発表をさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

詳しいことは部長のほうから説明させていただきます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 今、市長が申しました滑走路のリーサの件だけ、少しだけ。

これは滑走路の延長ということではないんですけども、滑走路の前後の安全基準の確保の延長が変わりまして、現状からプラス50メートル確保する法律に変わっておりますので、それに合

わせて、西側は既に用地があるので確保できているんですけども、東側が確保できないということで、少し埋立て等も入った形で、滑走路の延長ではないんですけども、施設自体の延長が少し長くなるというところで、これも事業主体は県になりますので、まだいつ着工するかとかいったところまではまだ決まっておられません。ただ、計画としてはございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） ありがとうございます。ぜひ引き続き、市長の手腕によってさらに新たな息を吹き込んで、対馬の道を極め、「離」の境地を目指して頑張っていただきたいと思っています。

公約どおりこれができますように、私のほうも頑張っていきたいと思いますので、市長の出馬の決断、前向きにとおっしゃいましたけども、最後に一言、よろしくお祈りします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 最後ということでございますけども、今、申し上げたとおり、また正式には後日、発表させていただきたいという思いでございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 分かりました。結論は期待しておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、坂本充弘君の質問は終わりました。

.....
○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時50分休憩

.....
午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆さん、おはようございます。

私は今回の一般質問は、7月の中旬以降にある電話がございました。これは大型観光バスの乗降です。お客を乗り降ろしする、こういうことなんですけど、このことで、現在、ちょうどふれあい処つしまの向かい側の交番の右側、ここが1か所、僅か1か所、そこで乗り降りしてくださいよと、しかも所要時間を5分以内にしてほしいという内容でした。

そういうことが、現在、調べてみれば、60台の観光大型バスがおります。そのようなことが